

5. まとめ

まとめ

【回答者属性】

回答者の47.0%が「関東」からの来県で、次いで「関西」の25.0%、「中部」の13.0%、「九州」の6.2%、「東北」の3.5%、「中国」の2.3%、「北海道」の2.2%、「四国」の0.8%という構成比になっている。

令和1年度調査と比べ地域構成に大きな変化は見られない。性別では「男性」66.7%、「女性」33.3%と女性より男性の割合が倍近く多い結果となった。

年代別では「30代」「40代」「50代」がそれぞれ20%を超え、「20代」が15%強、「60代」が10%強というバランスになった。

同伴者は「夫婦」が最も多く24.7%、次いで「一人」の21.7%、「子供連れ家族」の17.5%と続いている。

令和1年度那覇市調査と比べると「一人」「夫婦」「恋人・パートナー」「子連れ家族」が増え、「男女グループ」などが減少している。

【旅行実態】

旅行目的は「観光」中心。男性は「ビジネス」、女性は「記念旅行」「マリナクティビティ（ダイビング含む）」も多い

旅行目的として最も回答が多かったのは「観光」で57.6%、次いで「ビジネス・研修」の10.0%、「保養・休養」の8.5%と続く。

性別で見ると、「ビジネス・研修」は男性の13.3%に対して女性は3.5%と大きく異なっている。一方で「記念旅行」「マリナクティビティ（ダイビング含む）」は女性が男性よりも2.7ポイント弱高くなっている。

それ以外では「結婚式に出席」が男性2.3%に対して女性は4.0%、「ワーケーション」が男性が4.0%に対して女性は4.5%と傾向に差が見られる。

年代別に見ると、40代で微減しているが年代が高まるにつれて「保養・休養」が増加する傾向にある。40代は「ビジネス・研修」の割合が15.9%で他の年代よりも高くなっている。

旅行日程は男性は「ビジネス・研修」、女性は「旅行の主な目的に適した時期」「家族の休暇に合わせて」で決定

旅行日程を決定した主な理由は「休暇が取りやすい時期」が29.0%と最も高く、次いで「家族の休暇に合わせて」の17.0%、「旅行の主な目的に適した時期」の12.8%の順になっている。

旅行日程を決定した要因を令和1年度調査と比較すると、「休暇が取りやすい時期」が9.2ポイント増え、「行事やイベントの日程」が19.3ポイントと大幅に減少している。

性別で見ると、男性、女性ともに「休暇が取りやすい時期」の割合が最も高く、女性は「旅行の主な目的に適した時期」「家族の休暇に合わせて」も高い傾向にある。

年代別に見ると、10～50代は「休暇が取りやすい時期」が最も多く、年代が高くなるにつれて「行事やイベントの日程」の比率が高くなっている。

【那覇市について】

那覇市への宿泊回数10回以上のヘビーリピーターが2割弱

令和1年度調査と比べて那覇市への宿泊回数は「3回」が19.3%と令和1年度調査と比べて7.2ポイント増加し性別で見ると、男性は女性に比べて「10回以上」のヘビーリピーターが多い傾向にある。

年代別にみると、50～70代で訪問回数10回以上のヘビーリピーターが20%を超えており、中でも50代は30%を超えている。

宿泊時期は2泊目以内が5割

那覇市内での宿泊時期について「1泊目」が62.2%と最も多く、次いで「2泊目」の43.5%が続き、3泊目以降は2割以下となっている。

性別で見ると、男女ともに「1泊目」を那覇にする宿泊者は5割を超える。「2泊目」は男性より女性で4.5ポイント高くなっている。

年代別にみると、那覇市の宿泊時期はすべての年代で「1泊目」が5割を超える。

宿泊施設は「シティホテル」が49.0%を占め、「ビジネスホテル」の29.5%を合わせると7割を占める。

性別で見ると、女性は男性よりも「シティホテル」が、男性は女性よりも「ビジネスホテル」の利用が多くなっている。

年代別に見ると、20～60代では年代が高まるにつれて「シティホテル」を利用する比率が高まる傾向にある。

宿泊理由は「利便性の高さ」

那覇市内への宿泊理由は「県内での移動の利便性」が最も多く36.3%、次いで「空港から近い」の34.2%、「価格が手頃」の28.2%と続いていて、性別や年代別でも大きな差は見られない。

市内の移動手段は「レンタカー」が最も多く50.5%と半数以上の人を利用し、次いで「一般タクシー」の24.8%、「モノレール」の18.8%と続いている。令和1年度調査と比較すると、「モノレール」が28.3ポイント大きく減少しており、「路線バス」が9.5ポイント増加している。

性別で見ると、男性は「路線バス」「モノレール」「自転車」が多く、女性は「観光バス」「レンタカー」「一般タクシー」が多い傾向にある。

年代別に見ると、どの年代においても「レンタカー」の比率が4割を超える傾向が見られる。

滞在中必要な情報は「飲食店」

滞在中に入手した情報は「飲食店」が最も多く、半数以上の人情報が入手している。

女性または若い世代で幅広く情報を収集する傾向がみられる。

旅行形態は「個人旅行」が過半数

旅行形態は「個人旅行」が70.5%と7割を占め、令和1年度那覇市調査に比べ15.1ポイント増加している。

市内消費額は一人当たり65,484円

那覇市内で支出した費用は65,484円で、令和1年度那覇市調査と比べ8,672円減少した。

支出項目を令和1年度那覇市調査と比較すると、土産品・買物費が3,555円減少しているが目立っている。

令和2年度沖縄県調査と比較すると、総額で34,472円支出額が少ないという結果となった。

那覇市滞在中に体験したナイトコンテンツはディナー（食事メイン）が4割

那覇市滞在中の18時以降の活動やナイトコンテンツの体験については「ディナー（食事メイン）」が49.2%で最も高く、次いで「ショッピング」45.8%、「市内散策」34.2%となっている。

性別にみると、男性に比べ女性の方が全体的に18時以降の活動やナイトコンテンツの体験割合が高い傾向があり、男性で割合が高いのは「バー・居酒屋」「舞台鑑賞」「エンターテインメントショー」「音楽ライブ」でわずかに女性よりも高くなっている。

活動内容に対する満足度は「満足」と「やや満足」を合わせると88.4%が満足している。

年代別にみると、満足度が高い年代は10代、20代及び60代で9割を超える。

次回のナイトコンテンツの参加意向は「ディナー（食事メイン）」が52.0%で最も高く、次いで「ショッピング」37.8%、「市内散策」33.0%となっている。

性別にみると、「ショッピング」は男性より女性が14.5ポイント高くなっている。

年代別にみると、「ショッピング」は年代が低くなるほど比率が高まり、年代が高まるにつれて「ディナー（食事メイン）」の参加意向度が高まる傾向にある。

ワーケーションに興味がある割合は6割超え

ワーケーションへの関心は「興味があり実践してみたい」「興味はあるが実践したいとは思わない」の合計で68.3%と高い。

性別で見ると、男性に比べ女性の関心度が高い傾向にある。

年代別にみると、年代が高まるにつれてワーケーションへの関心度が低くなり、若い世代での関心度が高い。